

スウェーデンでのお産と子育て

(1) スウェーデンでの妊娠

海外出産・育児コンサルタント

Care the World 代表

ノーラ・コーリ

【 はじめに 】

次なる世代が国を支え、若いパワーによって国が栄えていくのはどこの国も同じです。先進国における最近の少子化は深刻さを増しているようです。スウェーデンは1980年代に出生率が下がり傾向になり、国を挙げて政策の見直しをしてきました。行政は率先して出生率を上げるための対策としてさまざまな子育て支援を実施しています。保育園の数を充実させ誰でも入れるようにし、妊娠から出産までの費用を全面的に支給し、父親でも母親でもとれる出産・育児休暇を480日に設定し、病児看護休暇を取れるようにし、16歳までは全児童に対して児童手当を支給し、子育て中の労働時間の短縮をするなど福祉国ならではの充実に取り組んでいます。特に両親が働きに出ても安心して子育てができるように保育環境と教育環境づくりに焦点が当てられてきました。それはこれから紹介する妊娠や出産の時から始まります。

以下、この記事の本文は下記のURLにて閲覧ください。

会員限定ですので、会員企業様に配布しているID（ユーザー名）とパスワード入力をお願い致します。

* ニュースレター配信用の個別ID、パスワードとは別ですのでご注意ください。

<https://jomf.or.jp/login/pdf/2018/07/729/201709NLSweden1.pdf>